名古屋ハリストス正教会

なごや「聖歌」だより　3月号‘11

今月の予定　大斎開始：3月7日開始。平日の祈祷や先備聖体礼儀に参加しましょう。

聖歌練習

名古屋：3月13日代式後、

・復活祭の練習を開始します。復活祭は4月24日です。
主日朝、9時15分頃から声出しウォーミングアップ、その日のトロパリポロキメンなどの練習をしています。どなたもご参加できます。

半田：3月9日12:00から(9:30から大斎祈祷あり)

・ワシリーの聖体礼儀を練習します。

名古屋指揮当番

6日マリア松島、20日エレナ広石、27日ピーメン松島

ズナメニイ研究会　3月17日1:30から。

グレゴリオチャントが西洋宗教音楽の原点であるように、ズナメニイはロシア聖歌の原点です。ズナメニイを知ることでビザンティンとの継続性をとらえ、合唱音楽へと発展したロシア聖歌の底にある正教会聖歌の本質をさぐります。また日本語でズナメニイを歌ってみて、古聖歌の力を体感してみます。
http://www.orthodox-jp.com/liturgy/Znameny/chant.htm

「聖歌だより」も最初の発行から8年たちました。今年もまた大斎という新たな季節を迎える前に、内容とデザインを一新しました。
ガードナーの「ロシア正教会の聖歌」の連載に加えて、新シリーズ「知って祈ろう」を始めます。

知って祈ろう－奉神礼・聖歌入門

1．連祷あれこれ

連祷は正教会の礼拝の大きな特徴になっています。ニコライ大主教が日本語で祈祷を始めたときも、一番始めに「主憐れめよ」を日本語で歌ったと言われています。

ところで初代教会の頃、つまり使徒達やそのお弟子さんたちの時代はどんなふうに祈っていたでしょうか。最初は集まった信者たちが、口々に「○○のために」「××のために」「△△のために」と祈り、最後に司祭がまとめることばを祈っていました。

やがて時代がくだって人数も増え、みなが口々に唱えたのでは収拾がつかなくなって、司祷者が代表して唱え、ほかの人たちは祈りに心を合わせ「主憐れめよ」と唱和するようになりました。これが連祷の原型です。

最も古い形を五旬祭の晩課に見ることができます。まず輔祭が「ひざを屈めて主に祷らん」と心を一つにして祈るように促し、司祭が祝文（祈り）を唱えます。西方では「集会祈願」や「キリエ」に発展しました。一方東方では短い祈願のことばのたびに「主憐れめよ」を唱える形になり、今の連祷の形ができました。

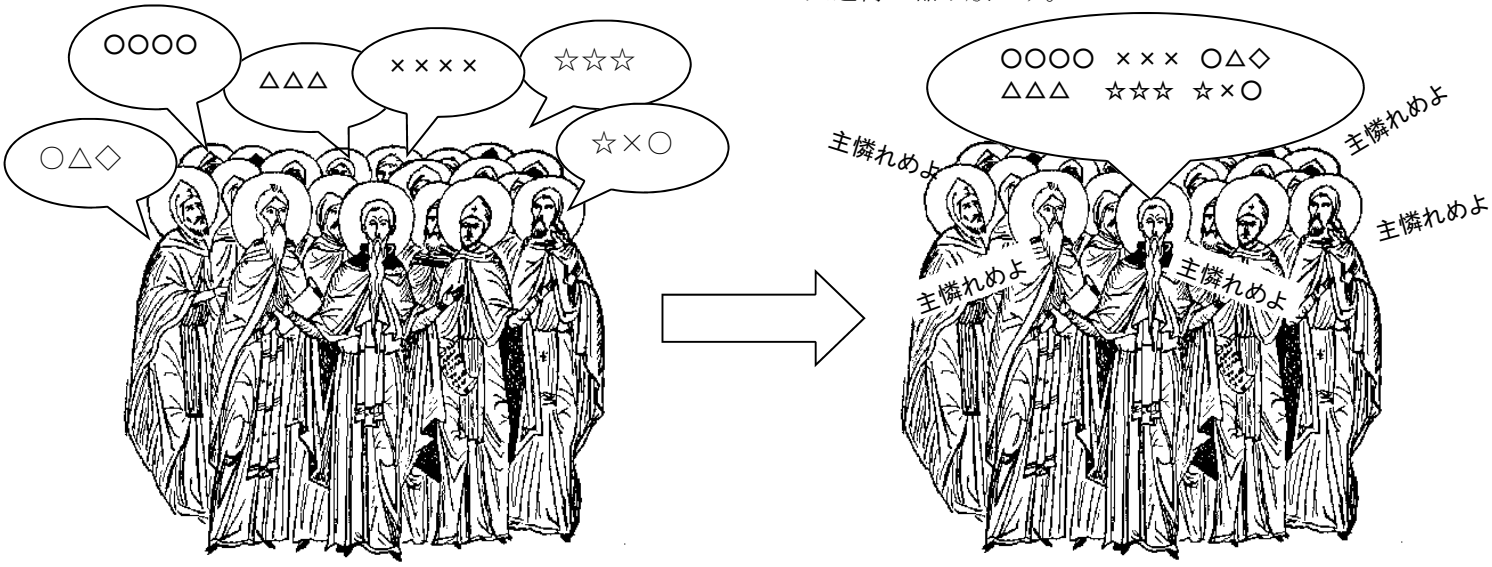
聖体礼儀でも早課でも晩課でも、礼拝の始めにはまず「大連祷」が祈られます。大連祷は教会が教会自身のため、街のため、世界のために包括的に祈ります。

それに対して「主憐れめよ」を3回唱える「重連祷」は信徒の個々の具体的な問題や願いに対応しています。病気の人や困難にある人の名前を挙げて、一人一人の問題を教会が一緒に祈りました。

リティヤも重連祷の一種で「主憐れめよ」をたくさん唱えて、熱心に祈ります。もともと地震や水害、異民族の攻撃など困難があったときに、街の広場などで主教に率いられた信徒が一丸となって神に助けを祈ったのが始まりです。リティヤは英語の連祷“litany”の語源です。

パニヒダや埋葬など死者の祈りの時にもリティヤがありますが、リティヤとは通常外で行う祈願の祈りを指します。今は祭日のリティヤは教会の入り口近くで行いますが、昔は外または中庭で行わていました。

連祷にはほかに、具体的な祈願を唱え、「主賜えよ」と唱和する「増連祷」があります。「小連祷」は大連祷の縮小版です。



聖歌の伝統　J.V.ガードナー著
「ロシア正教会の聖歌」から

ガードナーの『ロシア正教会の聖歌』は世界中で広く読まれている正教会聖歌の入門書です。
ここでは現代日本の状況に合わせて適宜省略、解説を加えてご紹介しています。

一日の祈祷のサイクル（聖務日課）を図解すると図のようになります。円内の数字はおおよその時間です。聖体礼儀は通常は三時課と六時課を続けて行ったあとに行われますが、通常の時間の流れを越えた存在で、晩課のあとに行われることもあります。

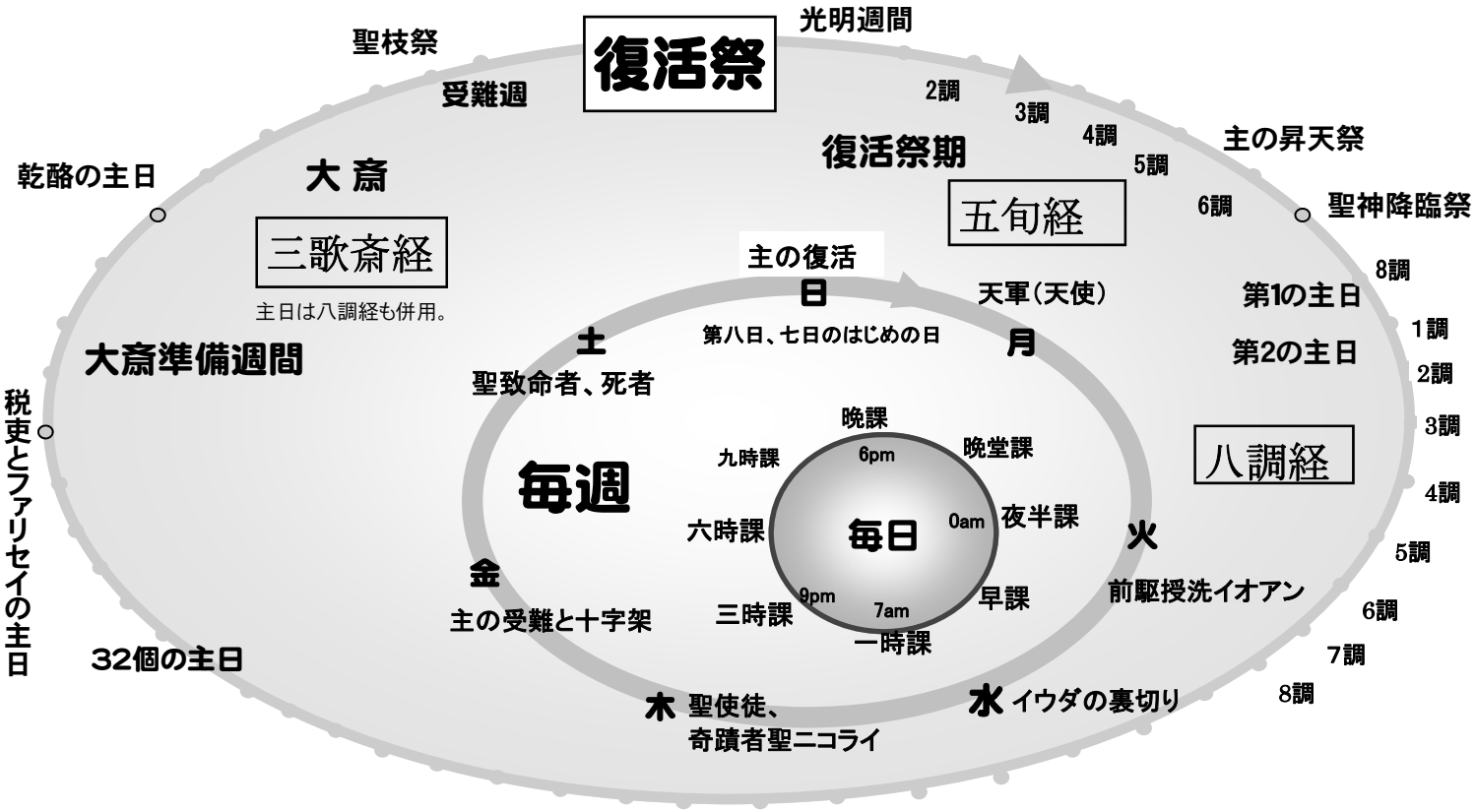
さて、ここにあげた８つの祈りの日課の中には歌の多いものと少ないものがあります。たとえば時課（一時課、三時課、六時課、九時課）は大半が誦読で、晩堂課や夜半課も歌う部分はごく僅かです。逆に、晩課や早課には歌う材料が豊富で、とくに徹夜祷として晩課早課を続けて行う場合には、祈祷の大半が歌になり、色とりどりのスタイルで歌われます。歌は神への奉献であると同時にその日や祭のテーマを彩り豊かに表現します。また様々な調（エコス）や音楽スタイルで歌われ、結果として音楽的に多様な姿を取ります。

歌や誦経の素材となるテキストは(1)年の周期と、(2)八週の周期に従って変わります。年周期の暦では、何月何日に歌うべき聖歌が定められています。『月課経』ここには固定祭日や聖人の記憶に関連した歌が含まれ、祈祷書に指示された調（エコス）で歌われます。例えば聖ニコライ祭（12月6日/19日）では、７調を以外のすべての調の歌があります。他の祭日や聖人の記憶日も同様で、すべての歌にさまざまな調が指示されています。

週の周期（八調・オクトエコスの周期）とは、八週間でひとめぐりする調（エコス、グラス）の周期で、「調の表柱（гласовой）」と言われます。たとえば今週が1調であるとすれば、次の土曜日の晩課から２調の週が始まります。調の周期の歌は『八調経』に各調ごとに記載され、土曜日日曜日だけでなく、すべての曜日の歌が含まれます。

実際には、週の周期に属する歌と年の周期に属する歌が組み合わされて実施されます。たとえば、今週が１調だとすると、１調の歌に加えて今日の聖人や祭日の要素から異なる調のトロパリやスティヒラが挿入されます。次々と異なる調の歌が歌われるので音楽的に変化に富んだものになります。組み合わせのルールは大変複雑なので、ロシアでは毎日の祈祷の行い方を記した『奉神礼の手引き』が毎年出版されています。

特別の期間（移動祭日の期間）、復活祭を中心とする大斎から五旬祭の期間は、『三歌斎経』（大斎と受難週、大斎前の４主日を司る）と『五旬経（三歌花経）』（復活祭の主日から五旬祭後第１の主日まで）を用います。日曜日には『八調経』の要素に『三歌斎経』の要素を加えて行います。



ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ
http://www.orthodox-jp.com/music
なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。
「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○　東方正教会の聖歌　*http://www.orthodox-jp.com/maria*
詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○　正教会奉神礼研究　*Liturgia*
http://www.orthodox-jp.com/liturgy　奉神礼や聖歌の実践資料

監修:ゲオルギイ松島雄一　編集:マリア松島純子